

第3回みんなで朝ごはん事業検討会 会議録

1 日 時

令和元年 10 月 10 日(木)18 時 30 分～19 時 45 分

2 会 場

磐田市役所本庁舎4階 大会議室

3 出席者

検討会メンバー13名

村上 勇夫(磐田市自治会連合会 会長)
三浦 靖男(向笠地域づくり協議会 会長)
伊藤 富次夫(豊浜地域づくり協議会 会長)
吉添 繁雄(南交流センター センター長)
大杉 達也(豊岡中央交流センター センター長)
山下 重仁(磐田市社会福祉協議会 事務局長)
吉野 武夫(中泉地区地域づくり協議会福祉部会 部会長)
三上 和代(南御厨地区社会福祉協議会 会長)
松井 文孝(磐田北小学校 校長)
清水 孝彦(竜洋西小学校 校長)
萩田 鎮哉(磐田中部小学校 PTA 会長)
堀内 大義(竜洋東小学校 PTA 会長)
大橋 弘和(青城小学校 PTA 会長)
※大畑邦子(豊岡北小学校 PTA 会長)は欠席

事務局7名

鈴木 雅樹(秘書政策課長)
伊藤 豪紀(秘書政策課 部付主査兼政策行革推進グループ長)
松下 公彦(秘書政策課政策行革推進グループ 主任)
鈴木 基輝(秘書政策課政策行革推進グループ 主任)
宮本 典寿(地域づくり応援課 部付主幹兼課長補佐兼地域支援グループ長)
岡田 佐栄子(こども未来課 部付主査兼こども支援グループ長)
松井 信治(学校教育課 主幹兼指導グループ長)

4 内 容

(1) 開会

(2) 検討すべき課題について

- 前回のグループワークの続きを行った。
- 各グループで出た意見は別紙のとおり。

(3) 次回検討会について

後日、日程を連絡する旨を伝えた。

(4) 閉会

以上

Aグループ

課題 (大分類)	課題(小分類)	対応
担い手	・ <u>リーダー</u> (Keyman)をやる人がでるか ・ボランティアの <u>リーダー</u> になってくれる人をどうやって見付けるのか ・ <u>主</u> になってくれる人をどうやって探すのか	<ul style="list-style-type: none"> ・目的を明確にしないと担い手の理解が得られにくい。 ・頻度、場所、内容、有償か無償かなど、条件を決めて一般公募するのが良い。 ・PTAや地域の方をお願いしている学校活動のボランティア(裁縫・読み聞かせ等)に加えて募集する。 ・協議会(福祉部会)等に周知しながら、食育に興味ある人(仲間又は個人)を集める。 ・担い手の自由度も必要。条件に幅を持たせるべき。最低限のルール、条件を示しながら自由裁量を与える。 ・回数は担い手が決めるべき。 ・朝ご飯を習慣づけさせるには、週2～3回の実施が必要。 ・朝ご飯を食べにくる児童だけを対象とするのではなく、他の児童やご家庭にも啓発・意識付け(朝ごはん・生活習慣の大切さ)させることは大事。 ・まず啓発(意識付け)をしながら習慣につなげるべきではないか。 ・担い手の考えにもよるが、有償ボラが良いだろう。謝礼でもよい。 ・はじめから継続をあまり意識せずにスタートすればいいのではないか。
	・ボランティアが <u>集まる</u> か ・担い手が <u>集まる</u> か ・PTAの理解や協力も必要	
	・ <u>継続</u> して人が確保できるようになっているか ・ <u>継続</u> できる担い手が集まりやすい ・ <u>継続</u> することを前提に各地域で気持ちよく受けていただける方がいるのか	
	・朝6時から料理してくれる人を探す？ ・ <u>公募</u> する？ ・ <u>無償</u> ？ ・前日準備も買い物もできる人？	
	・ <u>家族</u> の理解が得られること	
	・行政・地域・学校のいずれにも大きな <u>負担</u> にならない役割分担	
	・ <u>衛生管理</u> の免許を持っている人の確保	
	・会場まで <u>無理</u> なく出かけられる人	
	・ボランティアは <u>無償</u> ・ <u>有償</u>	
	・地域づくり協議会で <u>担える余力</u> があるだろうか	
場所	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の場合 調理室は借りられる？設備は十分か？ <u>入出管理</u>の方法 ・学校以外としたら 	<ul style="list-style-type: none"> ・まずは朝ご飯事業を実施できる、または実施しやすい学校・交流センターはどこかを確認し絞り込んだほうがよい。適当な場所は限られて

	<p>場所を探せるとは限らない</p> <p>交流センターは？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公共施設、企業との連携 ・朝6時前に鍵を開ける ・前日の搬入、仕込みも自由に出入りしてやれる場所 ・学校のセキュリティは守られるのか ・学校のセキュリティの解除など先生方の協力なくしてできないのでは ・学校の教員で面倒を見る余裕があるか ・エアコン等の設備を考えると学校には不足がある。 ・地域(周囲)の理解が得られるか ・先生に迷惑、負担がかかってしまわないか ・食事をとる場所があるか ・希望児童が多くなった場合どうするのか ・食器の管理、保管場所があるか 	<p>くるのではない。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・継続実施しやすい条件として、1階（食材搬入しやすい）、施錠が単独、セキュリティ解除しやすいなどがある。 ・学校と隣接している交流センターがあるなら、センターの方が実施しやすい場合もある。（食材搬入など） ・場所の管理者と担い手の関係が大事で、楽しくできるかはそこがポイント。 ・地域に午前6時の開場・セキュリティ解除を任せてもらえばよい。（教員に頼らない）
費用	<ul style="list-style-type: none"> ・資金はどこからでるのか（市、地域、児童、寄附） ・公費を一部のところに支出するには理解が得られるか ・始めるにあたり費用がどれくらいかかるか ・補助金はあるか ・企業から寄附？ ・基本は食べる子が払う。 ・スタート時は市が初期費用の負担を ・集める方法 ・個人負担 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童からワンコインをもらった方がよい。お金を払って食べさせてもらうことでありがたみがある。 ・食材提供していただける企業やスーパーはある。 ・行政の助成金が必要。（初期投資）

その他の意見

- ・ニーズ調査が必要。ニーズがない状態で立ち上げようとする難しさがある。
- ・いつから朝ごはん事業のことを地域にオープンにして知らせていくのか。時期がきているのではない。
- ・目的を食育や生活習慣とするのであれば、定着には回数が必要。啓発という視点で開催し、来ない子(家庭)へも啓発をすることが求められるのでは。

Bグループ

課題 (大分類)	課題(小分類)	対応
担い手	リーダー確保 ・担い手のリーダー確保 ・リーダー選出 ・リーダーシップを取る人	<ul style="list-style-type: none"> ・担い手の方に事業の目的(趣旨)を正しく理解してもらうように。 ・まずはやってみる。やっているうちにやりがいを感じられるようになるのでは。 ・概要や計画がわからないと人が集まらない。初めは行政が計画して実施したほうが良い。 ・地域を絞って働きかける ・担い手の役割を軽くする(メニューを決めておく・回数の減・資金の管理) ・調理師資格までは必要ない。食品衛生責任者の講習でも対応できる ・人脈を頼る ・組織・団体に働きかける ・サロン(福祉委員)に働きかける ・財源があれば有償ボランティア
	役割・範囲 ・時間的な制約を含めた役割分担 ・買い物は誰がするか ・どこまで仕事を頼むのか(調理のみ、買い出しから、メニュー決めから) ・担い手の役割を ・安全衛生面の配慮 ・献立を誰が決めるか	
	音頭取り ・続けるためのモチベーション ・誰が主体となるのか ・学校PTAの関わりはどこまで ・行政主導でよいのか	
	・場所が先か人が先か	
	有資格者 ・調理の資格者を入れる	
	募集方法 ・調理をするボランティア ・どのように頼むのか、誰が頼むのか ・誰にやってもらうのか ・高齢者(70代)に重点を置く	
	有償・無償	
場所	実施できる施設に限られるのではないか。(家庭科室が1階にないと難しい。)	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の条件的に実施できそうな学校から打診してみる ・事業の目的から、必要としていると思われる学校に打診してみる
	学校の日課との調整	
	学校の近くの施設でも良いのではないか。	
	通学(集団登校)への対応。	
費用	導入経費はどうするか。(食器や調理器具)	<ul style="list-style-type: none"> ・初期投資は行政が負担 ・50～100円/食程度の有料。食
	食材の費用はどうするか。	

	<p>ボランティアは有償か無償か。</p>	<p> べることのありがたさを感じさせたい。(経済的な問題を抱える家庭には配慮が必要。) ・フードバンクの活用 ・農家や企業に食材の寄付を依頼 ・多少の責任感を持ってもらうためにも、有償ボランティアにしたほうがよい。社協の生活応援クラブでは謝礼:時間 500 円を支払っている。 ・国や県等で活用できる補助金を利用。 </p>
--	-----------------------	---

Cグループ

課題 (大分類)	課題(小分類)	対応
担い手	・担い手の人数 ・ある程度の人数確保	・目的の明確化が重要 ・担い手に共感してもらうことが大切
	・継続性 ・モチベーション	・主旨を理解したうえで自主的に手を挙げる方に協力してもらう
	・行政主導ではなく、自主的な・・・ ・ボランティアの人材不足の現状 ・集め方 ・募集方法 ・人選方法 ・地域の理解	・民間委託 ・有償ボランティアとする。(足立区では時間 900 円) ・負担感を減らすことも重要。例としては、以下のとおり。 ①回数を減らす(月1回など) ②メニューを簡単なものにする(ごはん、みそ汁など) ③当番制にする(毎回、出席しなくてもよい状態を作る。ただし、これは担い手の人数がある程度揃うことが条件) ④大学との連携・協力 ⑤市職員としての協力(新人職員研修の一環としての参加など)
	・管理者をどうするか、責任の所在	
	・調理師の資格を持った人の参加	
	・外国籍の人は担い手になれる？	
場所	・設備の整っている場所	・学校は地域への開放も目的としているため、場所としての提供は理解が得られやすい。
	・学校の協力	
	・学校内に調理できる場所の確保	
	・必要な設備の設置 (食器、炊飯器、冷蔵庫、エアコン?)	・先生の負担感を減らす対策として、開錠はボランティアに鍵を預けることで回避できる。ただし、セキュリティ解除の方法を覚えてもらうなどの課題は残る。
	・衛生管理	
	・参加人数(スペース)	
	・登校方法(集団登校)への対応	・登校方法については、「集団登校」と「単独登校」があるが、集団登校の場合は、朝ごはんの参加する生徒を事前に告知することで集団登校でも実施は可能。ただし、登校時の安全面の課題が残るため、交通
	・先生に負担をかけない開錠の対応が必要。	

【別紙】 第3回検討会グループワークまとめ

		<p>ボランティアへの協力の呼びかけや、朝ごはんに参加する生徒同士で集まって集団登校するなどの対応は必要と思われる。</p> <p>・学校備品を活用する。ただし、境界線(ルール)はしっかりと決めておく必要がある。</p>
費用	・食費の有償か無償か？	<p>・企業からの協力</p> <p>・行政からの補助</p> <p>・学校備品を活用</p> <p>・参加者から一部負担額を徴収。ズルい親をつくるだけにならないための1つの防止策</p>
	・持ち出しの発生	
	・光熱費	
	・冷蔵庫、鍋などある程度の初期費用	